



「福澤育林友の会」ニュース

第23号 発行日2013年1月10日

福澤育林友の会
東京都港区三田2-15-45 慶應義塾 管財部
TEL:03-5427-1050 FAX:03-5427-1190
<http://www.f-ikurin.jp>



「年頭にあたって一雑感」

福澤育林友の会
会長 笠原 忠
(慶應義塾常任理事)

2013年の新年のスタートにあたって、今年も平和で希望に満ちた年となることを祈願しております。

さて、もう2年以上前のことですが、「日本の森林が買われていく」というショッキングな話題がNHKクローズアップ現代の番組で取り上げられたことがあります(2010.9.7)。北海道や九州の山林が中国系企業によって密かに買収されていたことが判明、日本の森林が中国資本の投資対象になっているということであった。投資の意図は定かでないが、資産運用か、木材や水資源の確保、あるいはCO₂排出権取引にメリットを考えてのことかと思われる。同じ番組のシリーズで、「中国水ビジネスを狙え～50兆円市場争奪戦～」(2011.2.8)で、中国では今後10年で50兆円が水市場に投入されるという。飲料水や経済発展を支える産業用水、膨大な汚染排水の処理などが国家の喫緊の課題となっていることがわかります。



現在の中国は、経済の急速な発展に伴って都市と農村部の格差が格段に広がっているが、それとともに深刻なのは環境問題であろう。産業排気や車社会の到来でスモッグのひどさは産業革命時代のイギリスのような深刻な状態、砂漠化も深刻で、黄砂の影響は日本にまで及んでおり、工場排水や生活排水の増大などによって中国の河川、湖沼、渤海沿岸の水質汚濁問題は深刻化している(ショッキングな映像がYou Tubeなどにアップされている)。一部の地域では、汚染された水を飲むせいでがんの発生率も上がっている上、水不足もひどいという。

水不足、水質汚染、洪水などの水問題は中国だけでなく世界各地で発生しており、今後も人口の増加により、これらの問題は更に深刻化し、21世紀の最大の環境問題の一つとなると考えられています。日本ではかつて「水と平和はただ」と言われたほど、水(や国家の安全)に対する危機意識が低かったが、さすがに今日そう思う人はほとんどいないと思うが、安全な水利用を持続的に確保するには自国民が水源地域である森林の保全、管理をすることが大切であるとともに、日本の高度な水質管理技術をもって世界の水問題、環境問題に貢献し、水ビジネスが展開できるはずである。

南三陸町の今と「慶應の森」

山内 日出夫
(南三陸森林組合 総務課長)

東日本大震災では、津波によって壊滅的な被害をもたらした歳月は2年になろうとしており、被災者の傷んだ傷跡を癒す特效薬はなかなか見つかりません。今言える事は、出来るだけより多くの方々が南三陸町を訪れていただく事から全てが始まるかと思えます。風光明媚でキラキラした青い海も何事もなかった様に戻りつつあり、湾内での養殖施設も全国からのボランティア支援により大方復旧されてきております。

湾の豊潤な海の背景には、分水嶺によって形成されている南三陸町の地形が物語っており、川上の緑豊かな山林からはミネラル豊富な冷水が川を伝わり湾へと注がれます。そのひとつに「慶應の森」が大変重要な役割を果たしており、来るべき優良品やぎ材や南三陸産材として成熟期を迎えようとしております。40年前にスギが植林された森も長年の厳しい気候風土に耐え、44haの広大なスギ林を築き上げました。また、森には広葉樹林もあって山頂には山ツツジの群生地があり、尾根筋の南方向に位置する翁倉山532mにはイヌワシが棲んでいます。東北楽天イーグルス・ファンにとっては大変興味深いものと言えます。

今後「慶應の森」では計画的な施業管理のもとで健全な森づくりと、さらに森林を活かし多様なニーズに応えた森林づくりが求められております。山に足を運ぶ事が山のこやし(肥料)になるとよく言われるように、これからも南三陸森林組合が元気いっぱいの塾生と共に慶應義塾学校林の保全活動に努めて参りたいと存じますので、関係皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

徳川の森の概況と森林学習の場としての提案

石井 良一
(大能林業有限会社 茨城事務所所長)

徳川の森の概況

水戸徳川家の森林は茨城県の北部に位置し、北は福島県、東は太平洋に面している地域で八溝多賀森林計画区に属し、高萩市大能地区、常陸太田市天竜院地区、常陸太田市瑞龍地区の3つの団地で構成され、所有森林面積は1,509haで、県北地域の民有林面積77,647haの1.9%を占めています。

水戸徳川家2代藩主光圀公が南部藩より馬13頭を取り寄せて水戸藩の軍用馬を飼育したのがこの地の始まりで、現在でも大能牧場と称されています。その後明治38年に11代の公爵徳川昭武によりドイツ林業を基礎に民有林で初めて森林施業方案が編成され本格的な森林経営を始め、現在のスギ・ヒノキを主体とする人工林率は83%となっています。

標高は400mから高い所では700mあり、年間降水量は1,300mm前後、平均気温は13℃前後で、最低気温はマイナス5~6℃になる年もあります。



徳川の森の植林等ボランティア作業の場としての活用

徳川の森では毎年約 10ha の主伐と約 10ha の間伐事業を行い、造林作業は春に約 10ha の面積を植林し、夏に約 50ha の下刈り、秋から冬は約 15ha の除伐と枝打ちを繰り返し行っています。

年間を通して作業を行っていますので、森林林業教育活動の場やボランティア作業の体験の場、あるいは動植物など森林生態系の学習の場としてご活用いただければ幸いです。

* 大能林業(有)石井所長には、平成 24 年 9 月研修旅行「茨城を訪ねる旅」の際、徳川の森をはじめ現地でのご案内役をしていただき大変お世話になりました。[事務局]

福澤育林友の会「水戸市を訪れる旅」

千足 房代
(昭 46 政卒)



平成 24 年 9 月 8 日(土)朝 7:00。三田警備室前のバスのガイド席の壮年の男性が、乗ってくる参加者に気軽にご挨拶なさり、道中ガイドも始められました。まさか徳川さんではあるまい、が、まさかの水戸徳川家第 15 代当主徳川斉正様(昭 55 年商卒)でした。

気軽なお人柄と、自然に『殿様』とお呼びしたくなる風格に魅了され、一行は『殿様』『殿様』とすっかりファンクラブ状態となりました。更に感激したのは、水戸偕楽園の見学時。園内諸処で法被や作業服姿の管理、お掃除の方々が『殿様』にご挨拶なされると、『殿様』は必ず相手より低く、身体を 45 度以上に折り、頭を下げられるのです。27 歳の時お父様が亡くなられ当主となられたそうです。お若くてさぞや御苦労されたのか、お母上の御薫陶なのか、上に立つ者かくあらねばと教えられました。



私の福澤育林友の会とのなれそめは、8 年前の 2004 年、当時の商学部長、中国植林活動も行ってた同期友人桜本光君が志津川研修旅行に誘って下さった事からです。また慶應の森の提唱者高村象平元塾長が、私が在学中在籍の端艇部部長であられた事も、福澤育林友の会および育林事業に親しみを持つ由縁でもありました。



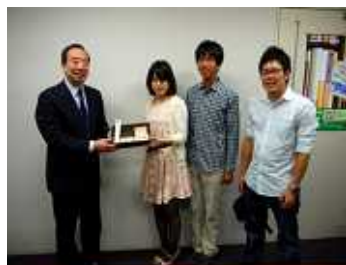
私は、112 年三田会(昭和 46 年卒、5,781 名)の事務局運営に長く関わる中、同期全員への年 2 回の会報発行も続けており、桜本君は福

澤育林友の会や植林活動を広めるに適任と思われたようですが、中々巧く行かず、自分だけが福澤育林友の会の皆様と仲良く、今回のように旅を楽しんで参りました。

今回の旅をきっかけに、徳川様は幼稚舎生の教育の為に大能林業『徳川の森』を役立たせようとのご意向との事、私も 112 年三田会会報第 31 号からの再発行を行い福澤育林友の会と慶應義塾育林事業の広報宣伝の一助をさせて戴こうと思っております。

南三陸 慶應の森「間伐材グッズ」による環境保全と復興支援への取組み

慶應義塾大学 社会・地域連携室



「南三陸プロジェクト塾生から塾長への間伐材グッズ贈呈」



東日本大震災復興支援と環境保全活動の一環として、宮城県南三陸町・慶應の森の間伐材を使用した慶應義塾公式グッズが実現しました。全国の三田会をはじめ、多くの皆様からご好評をいただいています。

この取組みは、慶應義塾南三陸プロジェクトに参加する塾生が現地での活動を通じ、「未来へ向かって慶應義塾だからやれることがあるのではないか。これまで活用されず廃棄されていた慶應の森の間伐材を有効活用して復興支援に役立てられないか。南三陸杉の良さを伝え、より多くの人に親しんでもらいたい。」という想いから発案されたもので、南三陸森林組合、製材所や工房の皆様のをいただきながら、ピンバッチ（ペンマーク、エンブレム、クチバシカジカの3種類）、ブックマーカー、コースター、ペントレイを作製しました。これらのグッズには全て慶應の森の材が使われ、南三陸の方々働く工房で作られています。

みんなの想いがみどり豊かな東北をつくる。想いがどんどん重なって、東北の笑顔が増えていく。グッズを通じて慶應義塾の環境保全や復興支援への取組みを伝えていくことができればと思います。

間伐材グッズのお求めは、下記ホームページからお願い致します。
慶應義塾公式グッズ <http://keiogoods.jp/>

平成 24 年度「研修旅行」の予定

2013.9.6(金) ~ 8(日) 2泊3日

2010年に予定しておりました「紀州和歌山研修旅行」は、台風に伴う豪雨災害のため余儀なく中止となりましたが、現在は復旧工事も進み、安全に旅する事が出来るようになりました。

2013年度は改めて紀州和歌山を訪ねる研修旅行として、9月6日～8日2泊3日の予定で計画中です。和歌山県の「清水の森」をはじめ、紀伊白浜、熊野古道、龍神温泉、高野山などを巡り、大自然を満喫できる盛り沢山の研修旅行を準備しております。

詳細が決まり次第ご案内いたしますので、皆さま奮ってご参加下さい。



事務局からお知らせ

昨年11月より亀田課長の後任として「福澤育林友の会」事務局を仰せつかりました木下と申します。初めてのことばかりで少々戸惑ってはおりますが、皆様のお役に立てるよう精一杯頑張る所存です。今後とも皆様のご指導・ご鞭撻で木(下)を大きく育てていただければ幸いです。(木)